

鉄筋コンクリート造建築物の応急危険度判定調査表

整理番号: _____ 番 調査日時: _____ 年 _____ 月 _____ 日 午前/午後 _____ 時
 調査回数: _____ 回目 調査者: _____
 所 属: _____

1. 建築物概要

1.1 建築物名称 _____

1.2 建築物所在地 _____

1.3 所有者 _____ 連絡先 _____

1.4 連絡者 _____ 連絡先 _____

1.5 建築物用途 ☐事務所 ☐住宅 ☐共同住宅 ☐店舗 ☐工場 ☐倉庫 ☐学校
 (複数選択可) ☐保育所 ☐庁舎 ☐公民館 ☐体育館 ☐病院 ☐その他() _____

1.6 構造種別 ☐鉄筋コンクリート造 ☐プレキャストコンクリート造 ☐ブロック造
☐鉄骨鉄筋コンクリート造 ☐併用構造() _____ 造と() _____ 造

1.7 構造形式 ☐ラーメン構造 ☐壁式構造 ☐その他() _____

1.8 建築物規模 地上 _____ 階 地下 _____ 階 階層 _____ 階 1階寸法: 約 _____ m × 約 _____ m

1.9 外装仕上げ ☐打放し ☐モルタル ☐タイル ☐石貼り ☐カーテンウォール
 (複数選択可) ☐PC板 ☐ALC板 ☐ブロック ☐その他() _____

2. 外観調査

2.1 構造躯体

	Aランク	Bランク	Cランク
2.1.1 地盤破壊による建築物全体の沈下	☐ 0.2m未満	☐ 0.2~1.0m	☐ 1.0mを超える
2.1.2 不同沈下による建築物全体の傾斜	☐ 1度(1/60)未満	☐ 1度~2度	☐ 2度(1/30)を超える

2.1.3 ラーメン構造の外周柱の被害
 (調査階 _____ 階 外柱総数 _____ 本 調査柱 _____ 本 調査柱率= _____ %)

1) 損傷度IVの柱本数/調査柱本数	☐ 10%未満	☐ 10~20%	☐ 20%を超える
2) 損傷度Vの柱本数/調査柱本数	☐ 1%未満	☐ 1~10%	☐ 10%を超える
3) 一見してCランクと分かる場合	☐		

2.1.4 壁式構造の外壁の被害
 (調査階 _____ 階 外壁総長さ _____ m 調査壁長さ _____ m 調査壁率= _____ %)

1) 損傷度IVの壁長さ/調査壁長さ	☐ 10%未満	☐ 10~20%	☐ 20%を超える
2) 損傷度Vの壁長さ/調査壁長さ	☐ 1%未満	☐ 1~10%	☐ 10%を超える
3) 一見してCランクと分かる場合	☐		

2.1 構造躯体の外観調査

	Aランク	Bランク	Cランク
1) 被災度ランクの数	Aランク _____ 個	Bランク _____ 個	Cランク _____ 個
2) 損傷度III以上の損傷部材の有無	☐ 無	☐ 有	

2.2 落下物

	Aランク	Bランク	Cランク
1) 窓ガラスの破損	☐ 1%未満	☐ 1~10%	☐ 10%を超える
2) 外装材 (☐ モルタル ☐ タイル ☐ 石貼り)	☐ ほとんど無被害	☐ 部分的ひび割れ 部分剥離	☐ 顕著なひび割れ 顕著な剥離
3) 外装材 (☐ PC板 ☐ ALC板 ☐ ブロック)	☐ 立て目地のきれ つ程度	☐ 板に隙間が見ら れる	☐ 目地ずれ顕著 板破壊
4) 庇、バルコニー	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
5) バラベット	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
6) 屋上広告塔	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
7) キュウビク	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
8) クーリングタワー	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
9) ウインドクーラー	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
10) ベントハウト	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
11) 屋上煙突	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
12) その他() _____	☐	☐	☐

2.3 転倒物

	Aランク	Bランク	Cランク
1) 屋外階段	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
2) ブロック塀	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
3) 軽油タンク	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
4) 自動販売機	☐ 傾斜なし	☐ 僅かな傾斜	☐ 傾斜が明瞭
5) その他() _____	☐	☐	☐

2. および2.3落下物・転倒物の外観調査

1) 落下物・転倒物被災度ランクの数 Aランク _____ 個 Bランク _____ 個 Cランク _____ 個

3. 内部調査

3.1 構造躯体

	Aランク	Bランク	Cランク
3.1.1 ラーメン構造の内柱の被害 (調査階 _____ 階 内柱総数 _____ 本 調査柱 _____ 本 調査柱率= _____ %)			
1) 損傷度IVの柱本数/調査柱本数	☐ 10%未満	☐ 10~20%	☐ 20%を超える
2) 損傷度Vの柱本数/調査柱本数	☐ 1%未満	☐ 1~10%	☐ 10%を超える
3) 一見してCランクと分かる場合	☐		
3.1.2 壁式構造の内壁の被害 (調査階 _____ 階 内壁総長さ _____ m 調査壁長さ _____ m 調査壁率= _____ %)			
1) 損傷度IVの壁長さ/調査壁長さ	☐ 10%未満	☐ 10~20%	☐ 20%を超える
2) 損傷度Vの壁長さ/調査壁長さ	☐ 1%未満	☐ 1~10%	☐ 10%を超える
3) 一見してCランクと分かる場合	☐		

3.1 構造躯体の内部調査

	Aランク	Bランク	Cランク
1) 被災度ランクの数	Aランク _____ 個	Bランク _____ 個	Cランク _____ 個
2) 損傷度III以上の損傷部材の有無	☐ 無	☐ 有	

3.2 落下物・転倒物

	Aランク	Bランク	Cランク
1) 天井仕上げ	☐ 健全	☐ 不明確	☐ 落下危険有
2) 天井の照明器具	☐ 健全	☐ 不明確	☐ 落下危険有
3) 天井の空調器具	☐ 健全	☐ 不明確	☐ 落下危険有
4) 天井・壁の吊り下り器具	☐ 健全	☐ 不明確	☐ 落下危険有
5) 間仕切り壁	☐ 健全	☐ 不明確	☐ 落下危険有
6) 内部階段	☐ 健全	☐ 不明確	☐ 落下危険有
7) その他() _____	☐ 健全	☐ 不明確	☐ 落下危険有

3.2 落下物・転倒物の内部調査

1) 落下物・転倒物の被災度ランクの数 Aランク _____ 個 Bランク _____ 個 Cランク _____ 個

4. その他

4.1 隣接建築物等の倒壊等による危険 ☐危険なし ☐不明確 ☐危険あり

4.2 数 値 電 気 ☐OK ☐NO ガス ☐OK ☐NO 水道 ☐OK ☐NO 便所 ☐OK ☐NO

5. まとめ

5.1 構造躯体に関する判定(「2.1外観調査」と「3.1内部調査」の和)

	Aランク	Bランク	Cランク
1) 被害度ランクの数	Aランク _____ 個	Bランク _____ 個	Cランク _____ 個
2) 損傷度III以上の損傷部材の有無	☐ 無	☐ 有	
構造躯体に関する判定結果	☐ 安全	☐ 要注意	☐ 危険(Bランクが2個以上を含む)

5.2 落下物・転倒物に関する判定(「2.2・2.3外観調査」と「3.2内部調査」の和)

	Aランク	Bランク	Cランク
1) 落下物・転倒物被災度ランクの数	Aランク _____ 個	Bランク _____ 個	Cランク _____ 個
落下物・転倒物に関する判定結果	☐ 安全	☐ 要注意	☐ 危険(Bランクが2個以上を含む)

5.3 総合判定

	安全	要注意	危険
5.1 構造躯体に関する判定結果	☐ 安全	☐ 要注意	☐ 危険
5.2 落下物・転倒物に関する判定結果	☐ 安全	☐ 要注意	☐ 危険
総合判定結果	☐ 安全	☐ 要注意	☐ 危険

5.4 避難所としての使用 ☐使用可能 ☐使用不可

鉄骨造建築物の応急危険度判定調査表

整理番号: _____番 調査日時: _____年 _____月 _____日 午前/午後 _____時
 調査回数: _____回目 調査者: _____
 所 属: _____

1. 建築物概要

- 1.1 建築物名称 _____
 1.2 建築物所在地 _____
 1.3 所有者 _____ 連絡先 _____
 1.4 連絡者 _____ 連絡先 _____
 1.5 建築物用途
☐事務所 ☐住宅 ☐店舗 ☐校舎 ☐体育館 ☐工場 ☐倉庫
☐その他 (_____)
 1.6 階数および基準階平面
 地上 _____ 階 地下 _____ 階 基準階平面 _____ m × _____ m
 1.7 構造種別
☐ラーメン構造 ☐筋かい構造 ☐混合構造 ☐その他 (_____)
 1.8 外装材
☐ラスモルタル ☐ALC板 ☐カーテンウォール ☐その他 (_____)

2. 調査

2.1 構造部分に関する調査

1) 地盤

- | | Aランク | Bランク | Cランク |
|-------------|----------------------------------|---|---------------------------------------|
| ①建築物周囲地盤の沈下 | ☐ 10cm以下 | ☐ 10cm超30cm以下 | ☐ 30cm超あるいは地割れ |
| ②建築物の不同沈下勾配 | ☐ 1/300以下 | ☐ 1/300超、1/100以下 | ☐ 1/100超 |

2) 建築物全体 (建築物の傾斜)

- | | Aランク | Bランク | Cランク |
|--------------------|----------------------------------|--|--------------------------------|
| ①傾斜を生じた階の上の階数が1階以下 | ☐ 1/100以下 | ☐ 1/100超、1/30以下 | ☐ 1/30超 |
| ②傾斜を生じた階の上の階数が2以上 | ☐ 1/200以下 | ☐ 1/200超、1/50以下 | ☐ 1/50超 |

3) 構造骨組

- | | Aランク | Bランク | Cランク |
|------------------|--|--|--|
| ①部材の座屈の有無 | ☐ なし | ☐ 局部座屈あり | ☐ 全体座屈あるいは著しい局部座屈 |
| ②筋かいの破断率 | ☐ 20%未満 | ☐ 20%以上50%未満 | ☐ 50%以上 |
| ③柱はりの接合部および継手の破損 | ☐ 接合部の変形 | ☐ ボルトの一部破断あるいは接合部のきれつ | ☐ 接合部または継手の20%以上の破断 |
| ④柱脚の破損 | ☐ 基礎コンクリートのひび割れ | ☐ 基礎コンクリートの部分的破壊 | ☐ 基礎コンクリートの圧壊あるいはアンカーボルトの破断・引抜け |

- ⑤腐食の有無 ☐ほとんどなし ☐著しい錆が各所に見られる ☐孔食が各所に見られる

2.2 非構造部分に関する調査 (内外装材の破損)

- | | Aランク | Bランク | Cランク |
|----------------------------------|---|--|--|
| ①内外壁などの仕上げ | ☐ 隅角部などのわずかなきれつ | ☐ 木目ずれ・わずかな剥離 | ☐ 全面にわたる大きなきれつ・面外へのはらみだし・部分的あるいは大きな剥離 |
| ②開口部・窓ガラス | ☐ 開閉に少々支障をきたす・ひび割れ程度 | ☐ 多くの隅角部破損・開閉困難 | ☐ 大半が破損・開閉不能・著しい破壊 |
| ③天井の仕上げ・照明器具の落下の危険 | ☐ なし | ☐ 落下の危険性が少しある | ☐ 落下の危険性がある、あるいは落下している |
| ④床のひび割れ・たわみ・むくりの有無 (土間コンクリートを除く) | ☐ なし | ☐ 20%未満 | ☐ 20%以上 |
| ⑤間仕切の倒壊・転倒の危険 | ☐ 健全 | ☐ 一部破損している | ☐ 大部破損している |
| ⑥その他 (_____) | ☐ 安全 | ☐ 少々危険 | ☐ 大変危険 |

3. 調査結果

3.1 危険度

	調査項目数	Aランクの数	Bランクの数	Cランクの数
構造部分に関する調査				
非構造部分に関する調査				
合 計				

3.2 総合判定

総合判定では、Cランクが1つ以上あるいはBランクが調査項目数の内半数以上の場合を「危険」、又、すべての調査項目がAランクの場合を「安全」、その他の場合を「要注意」と判定することとする。

したがって、以上の調査結果から当該建物は、

- ☐危険……当面使用禁止
☐要注意……使用注意
☐安全……継続使用可能と判定する。

3.3 注意事項 (その他気がついた点)

構 造 部 分: _____
 非構造部分: _____
 落 下 物: _____

木造建築物の応急危険度判定調査シート

整理番号： _____ 番 調査日時： _____ 年 _____ 月 _____ 日 午前/午後 _____ 時
 調査回数： _____ 回目 調査者： _____
 所 属： _____

1. 建物概要

1. 1 建物名称 _____
 1. 2 所在地 _____ 市 _____ 町 _____ 丁目
 _____ 郡 _____ 村 _____ 大字 _____ 番地
 1. 3 連絡先氏名 _____ 電話 _____
 1. 4 建物種別
☐住宅 ☐アパート ☐商店 ☐店舗併用住宅
☐事務所 ☐学校 ☐工場 ☐倉庫
☐旅館 ☐病院 ☐畜舎 ☐その他 (_____)
 1. 5 建築年度 (新築年度 _____ ; 増改築年度 _____)
 1. 6 階 数
☐平屋 ☐2階建 ☐その他 (_____)
 1. 7 1階床面積 (_____ m² (_____ 坪))
 1. 8 外装仕上げ
☐ラスモルタル ☐金属板 ☐ボード類 ☐その他 (_____)

2. 建物調査

- | | Aランク | Bランク | Cランク |
|-------------------|---|--|---|
| 2. 1 建物の不同沈下 | ☐ 不同沈下がないか
あっても軽微 | ☐ 床、屋根の落込み
浮き上がりが著しい | ☐ 小屋組みの破壊、
床全体の沈みこみ |
| 2. 2 建物1階の傾斜 | ☐ 1/60以下 | ☐ 1/50を超え1/20以下 | ☐ 1/20を超える |
| 2. 3 内外装仕上 | ☐ わずかなひび割れ | ☐ 大きな亀裂、剥落 | ☐ 亀裂、剥落により
落下の恐れ |
| 2. 4 落下物の危険性
瓦 | ☐ 危険性なし | ☐ 除去により危険回避可能 | ☐ 危険性あり |
| 外装材 | ☐ | ☐ | ☐ |
| ガラス | ☐ | ☐ | ☐ |
| その他 (_____) | ☐ | ☐ | ☐ |

3. 調査結果

3. 1 調査結果のまとめ
 Aランクの数 () Bランクの数 () Cランクの数 ()
 3. 2 危険度ランク
☐危険：Cランクが1つでもある
☐要注意：Cランクがなく、A及びBランクのみの場合
☐安全：全てがAランク
 3. 3 コメント
 建 物 (_____)
 落下物 (_____)

各部位の損傷状況ランク表

部位	ランクⅠ	ランクⅡ	ランクⅢ	ランクⅣ	ランクⅤ
基礎	●幅0.3m以上長さ200mm未満のひび割れが2～5箇所	●軽微に比べ損傷程度が若干大	●不同沈下●破損●局部的な破壊や仕上モルタル剥離、脱落	●破断●ひび割れ著しい	●移動●流失●転倒●上部構造を支えきれない
床組	●床組と壁との間にわずかなずれ	●床板の継目に隙間	●床板に若干の不陸●土台が基礎からわずかにずれ●柱が土台からわずかにずれ	●床板に著しい不陸●束が束石から脱落●柱の土台からの著しいずれ●土台の基礎からの著しいずれ●床板の折れ	●全ての床板に著しい不陸●全ての土台、柱、束が基礎、束石等から脱落●大引、根太の大部分が落下
軸組	●柱梁仕口にわずかなずれ	●一部の柱梁仕口にめり込み●柱梁に若干のたわみ	●柱、梁に割れ●柱梁仕口にずれ●柱に割れ	●柱、梁に断面欠損●柱、梁等に折損●天井板に不陸●天井板に歪●天井板のずれ、一部脱落●天井に剥離	●全ての柱が折損あるいは土台からはずれ●天井板が脱落
軸組壁	●壁面にわずかなずれ	●ボード壁：隅角部にひび割れ、一部の釘のめり込み●土塗壁：わずかなひび割れ	●ほとんどの軸組壁に残留変形●筋違壁：筋違仕口にずれ●ボード壁：釘頭のめり込み、ボード間の著しいずれ●土塗壁：ほとんどにひび割れ	●著しい残留変形(約1/10)*●筋違壁：筋違の破損、筋違端部の柱、土台からのずれ●ボード壁：面外に湾曲、下地材から脱落●土塗壁：土が小舞竹から剥離●貫の破損	●大きな残留変形(1/10を超える)*
仕上材	●モルタル塗り壁等：開口隅角部回りにわずかなひび割れ●ボード類：目地部にわずかなずれ	●モルタル塗り壁等：仕上の脱落●ボード類：目地部にひび割れやずれ●アルミサッシ：鍵の破損、ビードのはずれ、開閉が不能●木製サッシ：壁面との間に隙間●内装周辺部に隙間●タイルの目地に亀裂	●モルタル塗り壁等：仕上の大半が剥離または脱落●ボード類：大半の目地部に著しいずれ、釘打部の部分的な浮き上がり、隅角部の破損●アルミサッシ：ガラスの破損●内装合板の浮き●タイルが剥離●クロスの破れ	●モルタル塗り壁等：壁面のほとんどで仕上材が脱落●ボード類：大部分において釘の浮き上がり、脱落●アルミサッシ：はずれ、破損、アルミミッド破損●木製サッシ破損●木製建具破損●内装合板に剥離、脱落、タイルの剥落	●全ての仕上材が脱落●全ての建具、サッシが破損
屋根	●棟瓦の一部にずれ、破損	●棟瓦のずれ、破損、落下	●棟瓦以外の瓦にもずれ	●屋根に不陸●小屋組の一部に破損●瓦のほぼ全面的なずれ、破損または落下●金属板葺材のジョイント部にはがれ等の損傷	●小屋組の著しい破損、屋根葺材の大部分の損傷

(*注) 分数で表す残留変形は建物や各部位の傾きを示す。

鉄骨造建築物の被災度区分判定調査表

整理番号: _____ 番 調査日時: _____ 年 _____ 月 _____ 日 午前/午後 _____ 時
 調査回数: _____ 回目 調査者: _____
 所 属: _____

1. 建築物概要

1. 1 建築物名称 _____
1. 2 建築物所在地 _____
1. 3 所有者 _____ 連絡先 _____
1. 4 連絡者 _____ 連絡先 _____
1. 5 建築物用途
☐事務所 ☐住宅 ☐店舗 ☐校舎 ☐体育館 ☐工場 ☐倉庫
☐その他 (_____)
1. 6 階数および基準階平面
 地上 _____ 階 塔屋 _____ 階 地下 _____ 階 基準階平面 _____ m x _____ m
1. 7 構造種別 ☐ラーメン構造 ☐筋かい構造 ☐混合構造 ☐その他 (_____)
1. 8 外装材 ☐ラスモルタル ☐ALC板 ☐カーテンウォール ☐その他 (_____)
1. 9 基礎構造 _____
1. 10 敷地の地形 ☐平坦地 ☐傾斜地 ☐古地 ☐凹地 ☐その他 (_____)
1. 11 周辺の地形 崖から _____ m 海・湖・沼から _____ m (注: 50m以上の場合は記入不要)

2. 調査と評価

2. 1 構造骨組に関する調査と被災度区分

項目 被災度区分	地 盤	構造骨組 (構造形式別)		
		イ) ラーメン構造	ロ) 筋かい構造	ハ) トラス構造
I _s	☐ $\psi \leq 1/150$	☐ $\phi \leq 1/150$ ☐ 部材の降伏開始 ☐ 柱脚コンクリートのひび割れ発生	☐ 圧縮筋かいのわずかな座屈変形 ☐ 柱脚コンクリートのひび割れ発生	☐ 天井面筋かいの一部座屈変形
II _s	☐ $1/150 < \psi \leq 1/100$	☐ $1/150 < \phi \leq 1/100$ ☐ パネルゾーンの降伏 ☐ アンカーボルトの伸び	☐ 高力ボルトのすべり ☐ アンカーボルトの伸び ☐ 引張筋かいの降伏	☐ トラス面外へわずかに座屈変形
III _s	☐ $1/100 < \psi \leq 1/50$	☐ $1/100 < \phi \leq 1/50$ ☐ 局部座屈変形小	☐ $\phi \leq 1/50$ ☐ 筋かい破断 ☐ 接合部破断	☐ トラス面外座屈変形が顕著
IV _s	☐ $1/50 < \psi \leq 1/30$	☐ $1/50 < \phi \leq 1/30$ ☐ 局部座屈変形中	☐ $1/50 < \phi \leq 1/30$	☐ 斜材および弦材の座屈変形小
V _s	☐ $1/30 < \psi$	☐ $1/30 < \phi$ ☐ 接合部破断 ☐ 局部座屈変形大	☐ $1/30 < \phi$	☐ 斜材および弦材の座屈変形大 ☐ 接合部破断
VI _s		☐ 倒壊	☐ 倒壊	☐ 倒壊

注1 ψ は、最大相対沈下量による変形角

注2 ϕ は、柱の傾斜角

構造骨組の被災度区分 (上表中、地盤及び構造形式における該当する最大の被災度区分)

☐ I, ☐ II, ☐ III, ☐ IV, ☐ V, ☐ VI, ☐ 該当項目なし (0_s)

2. 2 非構造部材・仕上に関する調査と被災度区分

項目 被災度区分	被災部位			備考 (水平変形の目安)
	イ) 内外壁などの仕上げ	ロ) 天井	ハ) 開口部	
I _w	☐ 隅角部などのわずかなきれつ	☐ 天井材のずれ、はずれ	☐ 開閉に少々支障をきたす、ひび割れ程度	~1/150
II _w	☐ 目地ずれ ☐ わずかな剥離	☐ 部分的な剥離	☐ 多くの隅角部破損 ☐ 開閉困難	1/150~1/50
III _w	☐ 全面にわたる大きなきれつ ☐ 部分的な剥離 ☐ 面外へのはらみだし	☐ 全面的な剥離	☐ 大半の隅角部が破損 ☐ 開閉不能	1/50~1/30
IV _w	☐ 大きな剥離	☐ きわめて顕著な全面的な剥離	☐ 著しい破損	1/30~

非構造部材・仕上の被災度区分 (上表中、該当する最大の被災度区分)

☐ I_w (含・該当項目なし) ☐ II_w ☐ III_w ☐ IV_w

3. 総合判定

以上の構造骨組及び非構造部材・仕上の各々の被災度区分より下表に従って判定すると、

☐ 軽微 ☐ 小破 ☐ 中破 ☐ 大破 ☐ 倒壊

となる。

	0 _s	I _s	II _s	III _s	IV _s	V _s	VI _s
I _w	軽微	小破	中破	大破	倒壊		
II _w							
III _w							
IV _w							

4. 被災部分のスケッチ、所見等のメモなど

平成7年兵庫県南部地震被害調査報告書（建築編）

平成7年4月 発行

編 集

東急建設株式会社	技術本部	技術総務部	
	〃	建築技術部	
	〃	技術研究所	建築研究部
施工本部	建 築 部		建築工務部
〃	〃		建築設計部
〃	〃		構造設計部
〃	〃		設 備 部
大阪支店	建 築 部		工 務 部

発 行

東急建設株式会社

〒150 東京都渋谷区渋谷1-16-14 渋谷地下鉄ビル

電 話 03-5466-5111（代表） お問合せ先：広報室